

日本産ヒョウタンカスミカメ族(カメムシ目)のWebでの図説検索表

農業環境インベントリーセンター 中谷 至伸

はじめに

ヒョウタンカスミカメ族の多くはダニ類や小昆虫を捕食するとされ、自然環境ではダニ類などの天敵としての役割を果たしていると考えられます。本族中、最も普通にみられるヒョウタンカスミカメ(*Pilophorus setulosus*)は、里山を中心とした農業生態系に多く生息し、種々の落葉広葉樹上で生活しています。本族、特に最大の属であるヒョウタンカスミカメ属(*Pilophorus* Hahn)は体色・体形などが互いに類似した種が多

く(図1)、生物相の調査などで頻繁に発見されるものの、図鑑など同定に利用できる資料が乏しく、これまで分類の専門家でなければ同定は困難でした。そこで、種の同定に用いる形質をわかりやすく図示した図説検索表を作成・公開することで、同定を容易にする手段を提供しました。

ヒョウタンカスミカメ族

ヒョウタンカスミカメ族はカスミカメムシ科チビカスミカメ亜科に含まれ、全世界でおおよそ150種ほどが知られる比較的小規模なグループで、わが国ではこれまでに17種が確認されています。体長約2~4mmほどの微小なカメムシで、このうちヒョウタンカスミカメ属は細長い体形で、外見がアリに似ていることで知られています。これらの種では背面に特徴的な銀白色の鱗毛列を形成し、あたかもアリの腹部がくびれているかのように見えます(図2)。本族の種はほとんどが捕食性だといわれていますが、詳しい生態に関しては解明されておらず、また正確な同定すら難しい状況にありました。



図1 ヒョウタンカスミカメ属3種; A: ヒョウタンカスミカメ, B: ホソヒョウタンカスミカメ, C: ヨモギヒョウタンカスミカメ。

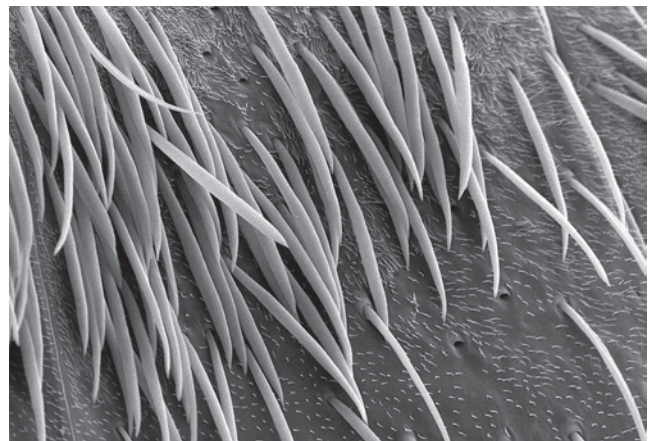


図2 左: クロヒョウタンカスミカメ *Pilophorus typicus* 成虫 (矢印は銀白色鱗毛列)。右: 鱗毛列の拡大図。

Webで公開した図説検索表

日本産ヒョウタンカスミカメ族17種について種の検索表を作成し、鱗毛の形態など識別点となる形質をすべて図示しました。これらを組み合わせてヒョウタンカスミカメ族の図説検索表を作成、Web公開しました（図3）。農業環境技術研究所の研究・技術情報のページ（<http://www.niaes.affrc.go.jp/techdoc/index.html>）からアクセスできます。

画面の左に体の全形図を表示し、右側で拡大している部位がどこかわかるように矢印で示しました。利用者は指示された形質を観察し、2つの選択肢から合致する方を順次選ぶことで該当する種に到達できます。なお、当ページには英語版も用意してあります。現在のところ検索表だけですが、個々の種について解説および画像を充実させる予定です。

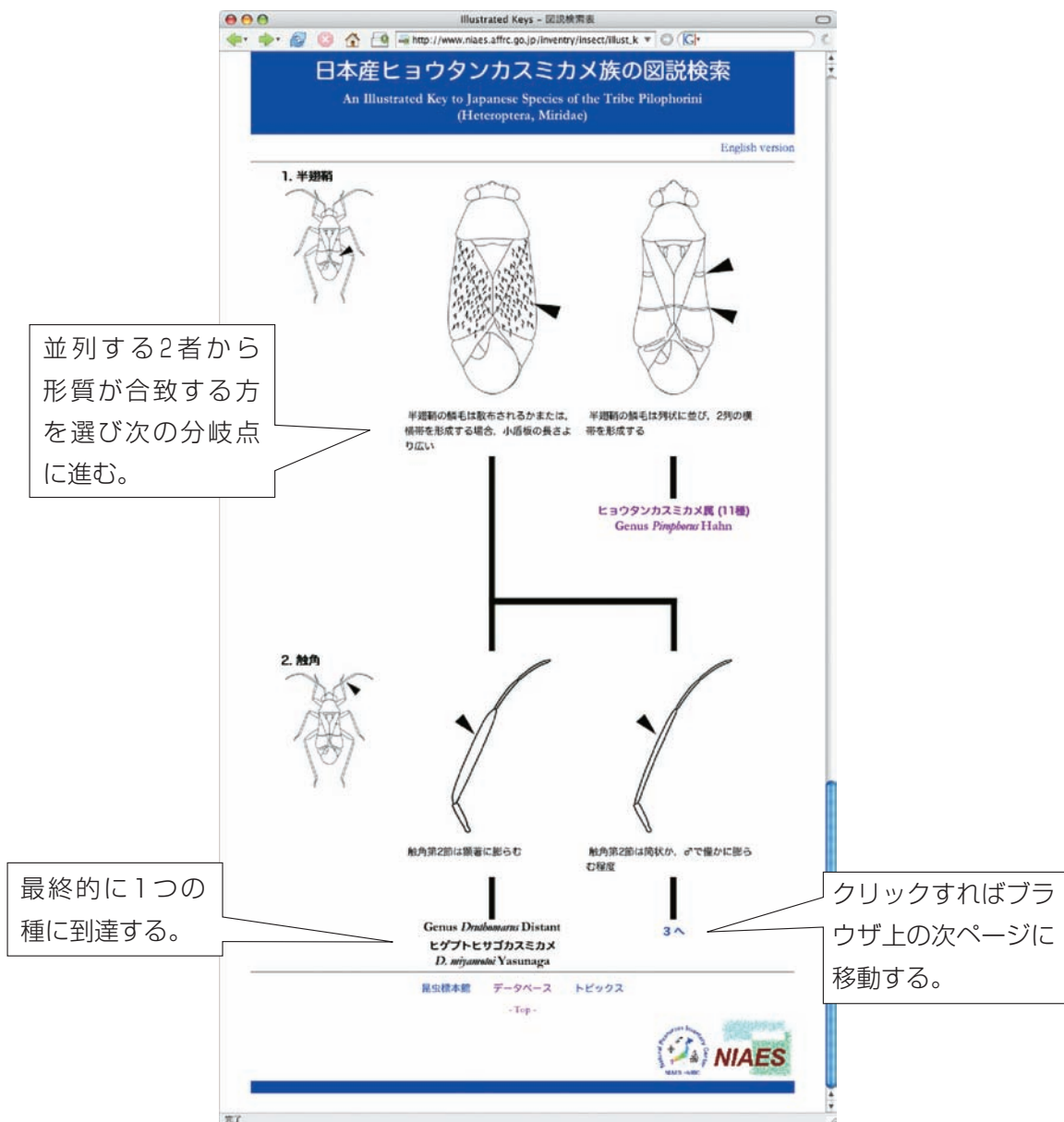


図3 ヒョウタンカスミカメ族の図説検索表画面 並列する2者から形質が合致する方を選び次の分岐点に進みます。これを繰り返すことで、最終的に1つの種に到達できます。